チャペル週報

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。
独り子を信じる者が一人も滅びないで、
永遠の命を得るためである。
（ヨハネによる福音書 3：16）

2006.12.18～12.22 No.25
関西学院宗教センター

☆チャペル・スケジュール☆

時間 10:35～11:05　　場所 各学部チャペル

12月18日(月)		ランバスチャペルアワー　於：ランバス記念礼拝堂
	神	ランバスチャペルアワーに合流
	経	経済と倫理 ①　西村　智（経済学部助教授）
12月19日(火)	**院**	大　平　有　紀（神学部大学院生）
	神	トーンチャイム隊によるクリスマス音楽礼拝
	文	田　淵　　結（宗教主事）
	社	希望をもって ⑥　Ruth Grubel（宣教師）
	法	「音楽チャペル」　上ヶ原フィルハーモニック
	経	舟　木　　譲（宗教主事）
	商	禪　野　美　帆（商学部専任講師）
	総	Dr. Eunja Lee（在日コリアンキリスト教会）
12月20日(水)	**神**	韓　　承　哲（Ｍ１）
	社	希望をもって ⑦　打樋啓史（宗教主事）
	法	Christian M. Hermansen（宣教師）
	経	経済と倫理 ②　井口　泰（経済学部教授）
	商	クリスマス音楽チャペル　バロックアンサンブル
	理	映像で見る「聖地エルサレム」
	総	Sandian Brassによる讃美
12月21日(木)	**神**	打　樋　啓　史（社会学部宗教主事）
	文	English Chapel　Andreas Rusterholz（宣教師）
	法	栗　林　輝　夫（宗教主事）
	経	舟　木　　譲（宗教主事）
	商	辻　　学（宗教主事）
	総	大　村　克　己（神戸三田キャンパス事務室課長）
12月22日(金)	**神**	共に創る礼拝 ③
	文	クリスマスパーティ
	社	クリスマスパーティ
	経	経済と倫理 ③　藤井和夫（経済学部教授）
	商	寺　地　孝　之（商学部教授）
	理	心静かにクリスマスを！ 理工学部ハンドベル

◇ランバス早天祈祷会　毎金曜日　午前8:20～8:40　於:ランバス記念礼拝堂（西宮上ケ原）
　　12月22日（金）クリスマスを感謝して（12/25）　　樋　口　　進
◇総合政策学部早天祈祷会　毎水曜日　午前８：40～　　於　Ｉ号館312教室

ココロオドル季節

打　樋　啓　史

「ココロオドル」はnobodyknows+のヒット曲名だが、クリスマスほどこのフレーズがぴったりの季節はない。彩られた街をプレゼント片手に行き交う人々。仲間と過ごす祝いの時。暗いからこそ光が、寒いからこそ暖かい部屋が、淋しいからこそ一緒にいる人が、これほど嬉しく感じられる季節はないのだろう。でも同時にこのシーズン、自分も含めて多くの人が「心躍る」というより「心を躍らされている」と感じることもある。クリスマスに華やかさの波に乗れず楽しめなかったり、一人静かに過ごしたりするのはとんでもなく不幸であると信じ込ませる、メディアや商業主義の凄まじい力が私たちに迫ってくる。

以前ある教会で副牧師をしていたときのこと。その教会ではクリスマスイブのキャンドルサービスが盛大に行なわれた翌日、12月25日の早朝に少人数でクリスマスの礼拝がもたれていた。その礼拝後、牧師たちと教会の数名のメンバーで、長い間病院や高齢者施設にいる教会員を一日かけて訪問した。近場から遠くは京都の山奥までかなりの数の人たちを訪ね、一緒に歌い、祈り、ささやかなプレゼントを渡した。クリスマス行事の連続で、しかも前日はほぼ一睡もしていないので体の疲労は大きかった。しかしそんな疲れを吹き飛ばしてくれたのが訪問した人々の喜びようだった。なかには「本当に嬉しい」と涙を流す人もいた。病院や施設に身を置き、あの人に会いたい、あの場所に行きたいと願ってもそれがかなわない受身の日々。そんな中でクリスマスに仲間たちが「メリークリスマス！」と訪ねてくることを、その方たちは心躍らせて待っていた。そして私もそこで心躍る体験をした。訪問した側の自分が、喜びを吐露する方々と一緒にいる内に、いつしか訪問され励まされているかのように感じる不思議なひと時だった。街の華々しさとはかけはなれた場所で、それまでに見たことのない暖かく明るいクリスマスの光を見つけたのだ。

巨大な力にただ「心を躍らされる」のではなく、本当に「心躍る」クリスマスを過ごすためには何が必要なのだろう。この季節に自分自身の体験を振り返りながら少し静かに考えてみたいと思っている。

（社会学部宗教主事）

● 関西学院のクリスマス行事

関西学院聖歌隊キャンドルライトサービス

１２月１９日（火）　１８：００　ランバス記念礼拝堂（上ヶ原）

「メサイア」コンサート　関西学院聖歌隊

１２月２０日（水）　１８：００　ランバス記念礼拝堂（上ヶ原）

関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール

１２月２１日（木）　１８：３０

クラシック音楽の殿堂、ザ・シンフォニーホールで行うクリスマス礼拝も今年で１８回を数えることとなりました。第一部は中央講堂で行う礼拝と同じものを、第二部は様々なジャンルのクリスマス音楽をお楽しみいただくコンサートとなります。

参加費の２０００円はチャリティーとして献金させていただきます。

チケットは大学生協サービスカウンターPGまで。

聖書の植物（１６）ヒソプ

シソ科ハナハッカ属の多年草。イスラエルの山野の至る所に自生し、5～10月に小さな淡紫色の唇状の花をつける。ヘブライ語ではエーゾーブと言い、エジプト脱出の時に、犠牲の血をこれに浸して、鴨居と入り口の二本の柱に塗ったとされている（出12：22）。またソロモンは、「レバノン杉から石垣に生えるヒソプにまで」樹木について語った、と言われている（王上5：13）。またこれは、清めの儀式にも用いられた（レビ14：4，詩51：8）。また、ヨハネ福音書19：29では、イエスが十字架上で息を引き取られる前に、人々が酔いぶどう酒を含ませた海綿をヒソプにつけて、イエスに差し出した、と言われている。これは、花と葉に芳香があり、副食物や薬用ともされる。清めの儀式に用いられたことから清いことの象徴ともされる。

現在ヒソプと呼ばれているハーブは、ヨーロッパで栽培されているものでヤナギハッカと言われるものであるが（ベルスクエアに植えられているのもこれ）、聖書に出るのはこれとは別の種類の学名をMajorana syriacaというものである。

今回で「聖書の植物」のシリーズは終わりである。吉岡記念館横のベルスクエアには、これら約20種類ほどの植物が植えられているので、是非一度ご覧いただきたい。